



教員に弓の性能を説明する森泰館長(左)

## 松江城 西長 公民館 教員に授業法伝授

# 松江城国宝指定

# 古里学習に積極活用を

天守の国宝指定を機に、松江城(松江市殿町)を積極的に古里学習に生かしてもらおうと、松江市堂形町の城西公民館で7日、近隣の小中学校の教員を招いた学習会が開かれた。同館の森泰館長(73)が国内外の小学校で38年間教員を務めた経験を生かし、道具や映像を用いて、子どもの関心を高める授業のやり方を伝授した。

(佐々木一全)

## 武器や映像 「関心引く教材鍵」

県内の小中学校で定められて意欲を決める」と強調した。一  
いる年間35時間の古里学習の充 例として、松江開府の祖・堀尾  
実につなげようと森館長が企 吉晴の生きた戦国時代の映像  
画。内中原小学校と松江第一中 や武器を用意し、「堀尾吉晴を  
学校の教員17人が参加した。 通じて時代背景に関心を持って  
森館長は開口一番、「教材選 もらうことができる」と説明し  
びが子どもたちの授業に対する た。

長さ約2.5mの弓と、松江城 鉄砲隊メンバーが所有する重さ 約5kgの火縄銃を参加者に持た せ、それぞれの射程や殺傷能力 を説明したほか、一発を放つの に必要な手順と所要時間を解 説。真剣に聞き入る参加者に、 「子どもの目線に立って授業内 容を組み立てることが意欲の向 上につながる」と説いた。

内中原小の住久由樹子主幹教 諭(50)は「古里学習の一例とし てとても魅力的だった。2学期 以降の授業に生かしたい」と話 した。